



●●ポイントの整理●●

① 話題をとらえる

キーワード（繰り返し出てくる言葉）や題名に注目して、何について書かれた文章なのかをとらえる。

② 文脈をとらえる

▽ 指示語や接続語に注目する。

▽ 言い換えられた表現に注目する。

大切な事柄は、言い換えられて繰り返し説明されることが多い。

▽ 具体例に注目する。

筆者は、自分の考えをわかりやすく説明するために、具体例を挙げることが多い。

③ 要旨をとらえる

文章後半など、結論が述べられている段落に注目する。

MEMO

確認問題

私たちは、漠然とした感覚を言葉にしようとするとき、ある種のもどかしさを感じる。感覚自体が曖昧なせいもあるが、その微妙な感覚を表現する言葉が手元にないもどかしさをしばしば感じる。この感覚にもっとびつたりした言葉はないのだろうか、手持ちの語彙をあれこれひっくり返して探す。そして、ようやく感覚にびつたりとくる言葉を見つけたときに、すっきりとする。

この言葉を探すもどかしさが見つけた後のすっきり感が、言葉とのつきあいのおもしろさだ。美しい言葉、汚い言葉という区別は、もちろんある程度はある。しかし、悪態や罵詈雑言の中にも、キレのいい意味美しさを感じさせる言葉もある。肝心なことは、感覚にびつたりした言葉が探し出される努力がなされているかどうかだ。感覚と言葉のズレをいつも意識する緊張感。この緊張感の持続が精神の張りとなって、聞く者や読む者の精神に張りを伝染させる。絵画でも音楽でも、本当に美しいものには、エネルギーが凝縮されている。作りのエネルギーと技が結集されて凝縮された作品が、緊張感のある美しさを生む。一見偶然に見える色使いや音のつながりが、一度慣れてしまうとどうしても必然に感じられてくる。もはやその色使いやその音の流れしかあり得ないとまで思わせる必然的な感じを見る者聞く者に与えるのが、美しい名作の特徴だ。

言葉においても同様だ。シェイクスピアの言葉は、しばしばピラミッドにたとえられる。一つの言葉を換えてしまうと、全体が崩れ落ちてしまう。そう思わせるほど、一つ一つの言葉が必然性をもって連なっている。原文はもちろん、たとえ邦訳であっても、その言葉の必然性は伝わってくる。そうした必然性は、何度も声を出して読んでいくほどしみ込んでくる。私はよく学生と歌舞伎のセリフやシェイクスピアの戯曲を声に出して読む。すると、名文と言われる文章ほど、何度読んでも飽きが来ない。むしろ噛めば噛むほど味が出るスルメのような言葉。こうした味わいのある美しさが、本当の名文にはある。

(齋藤 孝「美しい日本語の条件」による)

問一 この文章は何について書かれたものであるかを、次のようにまとめました。空欄をうめなさい。

絵画・音楽・言葉など
 本当の名作の **美しさ** について

問二 作者が考える「名作」とは、どのようなものかを、次のようにまとめました。空欄をうめなさい。

一見 **偶然** に見える色使いや音のつながりが、
必然 に感じられるようなもの。

問三 この文章の内容について、次のようにまとめました。空欄をうめなさい。

すぐれた名作は「味わいのある美しさ」
 = 何度読んでも **飽きが来ない**
 ← 一つ一つの言葉が **必然性をもって連なっている**

練習問題

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(長野県 改)

Ⅰ 私たちは、^ア漠然とした感覚を言葉にしようとするとき、ある種のもどかしさを感じる。感覚自体が曖昧^{あいまい}なせいもあるが、その微妙な感覚を表現する言葉が手元にないもどかしさをしばしば感じる。この感覚にもつとびつたりした言葉はないのだろうか、手持ちの語彙^{ごい}をあれこれひっくり返して探す。□、ようやく感覚にぴつたりとくる言葉を見つけたときに、すつきりとする。

Ⅱ この言葉を探す □ と見つけた後のすつきり感が、言葉とのつきあいのおもしろさだ。美しい言葉、^イ汚い言葉という区別は、もちろんある程度はある。しかし、悪態や罵詈雑言^{ざうごん}の中にも、キレのいい意味美しさを感じさせる言葉もある。肝心なことは、感覚にぴつたりした言葉が探し出される努力がなされているかどうかだ。感覚と言葉のズレをいつも意識する緊張感。この緊張感が、精神の張りとなって、^①聞く者や読む者の精神に張りを伝染させる。

Ⅲ ^ウかいがでも音楽でも、本当に美しいものには、エネルギーが^エぎょうしゆくされている。作り手のエネルギーと技が結集されて凝縮された作品が、緊張感のある美しさを生む。

一見偶然に見える色使いや音のつながりが、一度慣れてしまおうとどうしても必然に感じられてくる。もはやその色使いやその音の流れしかあり得ないとまで思わせる必然的な感じを見る者聞く者に与えるのが、美しい名作の特徴だ。

Ⅳ 言葉においても同様だ。シェイクスピアの言葉は、しばしばピラミッドにたとえられる。一つの言葉を換えてしまうと、全体が崩れ落ちてしまう。そう思わせるほど、一つ一つの言葉が必然性をもって連なっている。原文はもちろん、たとえ邦訳であっても、その言葉の必然性は伝わってくる。そうした必然性は、何度も声を出して読んでいくほどしみ込んでくる。私はよく学生と歌舞伎^{かぶき}のセリフやシェイクスピアの^オ戯曲を声に出して読む。すると、名文と言われる文章ほど、何度読んでもカ飽^カきが来ない。むしろ噛めば噛むほど味が出るスルメのような言葉。^②こうした味わいのある美しさが、本当の名文にはある。

(さいとう たかし)
齋藤 孝 「美しい日本語の条件」による

(注) 罵詈雑言⇨相手に向かって、悪口のかぎりを尽くすこと、またはその言葉

問一 一線部ア〜カのひらがなは漢字に直し、漢字にはよみがなをつけなさい。

ア	ばくぜん	イ	きたな	ウ	絵画
エ	凝縮	オ	ぎぎよく	カ	あ

問二 に入る言葉として適切な語句を、次から選び、記号で答えなさい。

- ア そして イ まるで ウ それとも エ しかし

問三 本文中の に入る適切な語句を、Ⅰ段落中から探して書きなさい。

もどかしさ

問四 一線部①「聞く者や読む者の精神に張りを伝染させる」とあるが、そうさせるものは何か。Ⅳ段落中から適切な部分を抜き出し、二十字以内で書きなさい。

つ	感
も	覚
意	と
識	言
す	葉
る	の
緊	ズ
張	レ
感	を
	い

問五 本文中で述べられている名作の美しさとは、どのように感じられる美しさか。本文中の言葉を使って三十字以内で、「美しさ」につながるように書きなさい。

(例)

必	い	一
然	や	見
に	音	偶
感	の	然
じ	つ	に
ら	な	見
れ	が	え
る	り	る
	が	色
	、	使

美しさ。

問六 一線部②のような美しさが名文にあるのはなぜか。その理由として最も適切な部分を、Ⅳ段落中から二十五字以内で抜き出し、「から」につながるように書きなさい。

る	性	一
	を	つ
	も	一
	っ	つ
	て	の
か	連	言
ら	な	葉
	っ	が
	て	必
	い	然

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(千葉県)

- 1 思い悩んでいるとき、なかなか解決策が見つからないとき、僕たちはだれかにその思いを語りたくなる。ただし、だれかが答を出してくれることを期待しているわけではない。ここが、**※カウンセリングに関して A 多くの人が誤解している点**だ。
- 2 **※**カウンセラーは、悩みを抱えて話しにくる **※**クライアントに対して、どうしたらよいのかを a アドバイスしないものだと**思われがちだ**。そこで、こんな悩みをもつ人にはどんなアドバイスをしたらよいのかと尋ねられたりする。しかし、悩みを抱えてやってきた人の相手をするというのは、b **そういうことではない**。
- 3 人からよく相談される人というのは、じっくり相手の話に耳を傾けてくれる人であるはずだ。相談者は、答をすぐに c **出してほしいのではなく、まずはじっくり話を聞いてほしいのだ**。語りた**いのだ**。
- 4 相談に行つて、親切にもこちらに代わつて即座に答を出してくれる人がいたとして、それは助かったと素直にその回答を B **採用するほど**、僕たちは単純素朴ではない。だいいち、本人がいくら考えてもわからない難問に対して、事情もよくわからない他人からそんなに簡単に答を出されてはたまらない。
- 5 だからといって、人に話すことが d **役に立たない**というの

ではない。いや、むしろ大いに役立つのである。あんなに悩んでいたのに、いろいろ迷うばかりでどうにも答が出なかったのに、人に話してみたら案外簡単に建設的な解決策が見つかった。そんなことも珍しくない。やっぱり盲点つてあるもんなんだなあ、と改めて感心する。事の大小はともかくとして、そうした経験はだれにもあるのではないだろうか。

- 6 C **そうしたケースでは**、悩みや迷いを話した相手が答を出してくれたわけではない。相手に事情がわかるように話して聞かせているうちに、これまでと違った視点からの回答がふと思いつかんのだのである。これまでいくら考えても思い浮かばなかったことが、別の構図のもとに突然浮かび上がってくる。迷いが吹っ切れる瞬間というのも、そのようにして訪れるのだろう。

- 7 **そこで意識されるのが**、D **、つまり聞き手がものごとを理解するのに主として用いている枠組みである**。聞き手の理解の枠組みを意識しながら、事情を説明し、自分の悩める思いを説明しているうちに、自分の理解の枠組みと聞き手の理解の枠組みが交錯しつつ融合し、そこに E **がもたらされる**。そんな感じなのではないだろうか。

(榎本博明「(ほんとうの自分)のつくり方」による)

- ※ カウンセリング＝悩みなどの相談にのること。
- ※ カウンセラー＝カウンセリングをする人。
- ※ クライアント＝カウンセリングを受ける人。

問一 文章中には、次の□内の段落が抜けている。この段落は文章中の①～⑥のどの段落の後に入れるのがよいか。最も適当な段落の番号を書きなさい。(2点)

では、そうした別の構図をもたらず新たな視点は、いったいどこからやってくるのか。それは、語り合いの中からというしかない。聞き手がいることで、聞き手にわかるように事情や自分の悩める思いを説明しようとする。聞き手がわかってくれないことには話が進まないで、聞き手に理解してもらおうにはどう説明するのがよいかを工夫しながら話すことになる。

問二 文章中にA多くの人たちが誤解している とあるが、多くの人たちは、クライエントがカウンセラーに対して、どう考えていると誤解しているのか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。(2点)

- ア 即答してもらえとは期待していない
- イ 答を出してくれることを期待している
- ウ 事情もわからず簡単に答を出しがちだ
- エ 十分話を聞いてくれないのではないか

問三 文章中の~~~~~(a・b・c・d)のうち、原文ではもともと肯定的な表現だったものを、否定的な表現に変えたことによつて、このままでは論理の展開上適切でないものが一つある。その記号を書きなさい。(2点)

a

イ

6

問四 文章中のB採用するほど を修飾している文節を、次のア～クのうちから三つ選び、その記号を書きなさい。(2点完答)

- ア それは
- イ 助かったと
- ウ 素直に
- エ その
- オ 回答を
- カ 僕たちは
- キ 単純素朴では
- ク ない

イ
ウ
オ

問五 文章中にCそうしたケース とあるが、具体的にはどういうケースか。文章中から最も適当な部分を二十六字(句読点は字数に数えない。)で抜き出して、はじめと終わりの五字をそれぞれ書きなさい。(4点)

人
に
話
し
て
、
見
つ
か
っ
た

問六 文章中のDに入る最も適当な言葉を、文章中の⑥・⑦段落の範囲から抜き出して、十字で書きなさい。(4点)

聞
き
手
の
理
解
の
枠
組
み

問七 文章中のEに入る最も適当な言葉を、「自分ひとり」「視点」という言葉を用いて二十五字以内で書きなさい。(4点)

	た	自
	と	分
	き	ひ
	と	と
	は	り
	違	で
	っ	考
	た	え
	視	て
	点	い

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(宮城県)

ある日、授業が終わって校門を出て来ると、いったん帰宅し、再びバスに乗って私を迎えに来た母が心配顔で立っていた。朝と同じ調子で帰り道を教え、阪神百貨店の前まで行き、

「ここは降りたところ。ここでバスを待たせてもあかんのや。ほれ、もうちょっと向こうに五十二番と書いた停留所があるやろ？ あそこから乗って、車掌さんに定期を見せて、ぼくはここで降りるから、着いたら教えて下さいやうんや。言えるやろ？ 言うてみなはれ」

私はランドセルの金具に①とゆわえつけられて中にしまい込んである定期券入れを出し、母に言われたとおりの言葉を繰り返した。

その翌日、私はいよいよひとりで学校へ行くこととなった。きのうも、おとも同じバスに乗っていた女の人が停留所に立っていた。バスが、橋を渡ってやって来た。私は満員のバスに乗り、おとなたちの足元を縫って運転席の近くに行った。②少しも怖くはなかった。私はランドセルから定期券入れを出し、これがあれば、お金がなくても一日に何度もこのバスで行ったり来たり出来るのだと思った。私は定期券の数字や、読めない漢字に見入ったり、運転手のハンドルさばきを覗き込んだり、外の景色を眺めたりした。③父が丈夫な釣糸三本で編んだ、定期券入れとランドセルの金具とを結びつけている長い紐を持ち、私は定期券入れを力一杯振り廻した。それは、座席に坐っていたお爺さんの手に当たった。

「こら！」

老人は手の甲を押さえて私を叱りつけ、

「そんなもん振り廻したら、危ないやないか」

と怒鳴った。びっくりして、私は老人に背を向けた。バスは梅田新道を左折し、御堂筋を大阪駅前へと走った。

「大きな帽子やなア」

さっきの老人が笑顔で私の帽子にさわった。

「もっと小さいのん、なかったんかいな」

一番小さい帽子の中に新聞紙を詰めても、それはまだ私の眉の下まで落ちてくるのである。

「これが一番ちっちゃかったんや」

そう私が言うと、まわりの何人かのおとなが笑った。私は恥しさで下を向いた。すると、帽子がずれて目も隠れてしまった。それでまたおとなたちは笑った。若い勤め人ふうの男が、私の頭から帽子を取り、手に持っていた新聞紙を折って丸い輪を作ると、汗取りの内側に巻きつけてくれた。すでに父が帽子に同じ細工をしてあったので、男の巻いた新聞紙は汗取りの内側からかなりはみ出したが、おかげで帽子は私の額で止まって落ちてこなかった。④私は大声で、

「ありがとう」と言った。

「顔がちっちゃいんやなア。松茸の傘みたいになってもたがな」

こんどは、さっきよりもっと多くの人が私を見て笑い声をあげた。私は、痩せっぽちだと言われるのと、顔が小さいと言われるのが嫌いだだった。

「一年三組には、ぼくよりもっとちっちゃい子が三人もいてるでエ」

私は相当むきになって言ったのであろう。運転手までが振り返って笑った。

バスから降りると、私は春の朝日に満ちた歩道で立ちどまり、定期券入れをランドセルにしまった。片手を背に廻してそのまま突っ込めばいいのに、⑤私はわざわざランドセルを肩から外して道に置き、底の方にしまった。私は不器用で、他の子供が難なくこなせることでも、かなり時間を必要とした。ボタンをかけるのも、食事を済ませるのも、靴下をはくのも。私はランドセルを背負ったが、どうも具合が悪い。服のすそが金具にひっかかってめくれ、袖も肘までずりあがって、幾ら引っ張っても直らない。私はまたランドセルを降ろし、道に置いた。そして歩道に坐った。ランドセルと自分の背を同じ高さにして、やっとなんと背負うことが出来た。だが、そのために十分近くも時間を費してしまった。私は御堂筋に向かって歩きかけた。ビルと車と人々の群れが私をたじろがせた。きのうもおともとも、母が傍にいてることで、それらは物珍しく楽しい風景でしかなかったのに、ひとりになると一変して、なにかしら冷やかな化け物みたいに見えるようになった。ひととき、⑥私は立ちすくんでいた。

(宮本 輝「力」による)

問一 文章中の①にあてはまる言葉として、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

- ア ゆったり イ すっきり ウ しっかり エ さっぱり

ウ

問二 前の文章中に②「少しも怖くはなかった。」とありますが、その理由として、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。(2点)

- ア 女の人やバスなど、きのうまでと同じ光景を目にしたので。
 イ バスの中なら、決して迷うことはないと思っただので。
 ウ 母親から離れて、自分だけで登校する日になったので。
 エ 大勢の人に助けられながら、運転席にたどり着けたので。

ア

問三 前の文章中に③「父が丈夫な釣糸三本で編んだ、定期券入れとランドセルの金具とを結びつけている長い紐」とありますが、この部分から読み取れる、父の「私」に対する思いを、三十字以内で説明しなさい。(4点)

(例)

た	ス	幼
父	通	い
親	学	息
の	す	子
深	る	が
い	の	ひ
愛	を	と
情	心	り
	配	で
	し	バ

問四 前の文章中に④「私は大声で、『ありがとう』と言った。」とありますが、この部分からうかがえる「私」の気持ちはどうのようなものだったか、三十字以内で説明しなさい。(4点)

(例)

が	い	恥
一	た	ず
番	の	か
う	で	し
れ	、	い
し	他	思
か	人	い
っ	の	を
た	親	し
。	切	て

問五 前の文章中に⑤「私はわざわざランドセルを肩から外して道に置き、底の方にしまった。」とありますが、その理由として、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。(4点)

- ア ランドセルを背負ったまま定期券入れをしまおうと中が乱雑になって、大切な定期券を探すときに迷うので。
 イ ランドセルを背負ったまま定期券入れを中にしまおうことは難しいし、大切な定期券がなくなると困るので。
 ウ 体が小さいためランドセルが重くて、肩から外したあとできちんと定期券入れをしまおうと考えたので。
 エ 細かいことがあまり得意ではないし、肩から外したランドセルに定期券入れをしまう時間があつたので。

イ

問六 前の文章中に⑥「私は立ちすくんでいた。」とありますが、このときの「私」の気持ちを、二十～四十字で説明しなさい。(4点)

(例)

な	い	向	大
恐	こ	か	都
れ	と	わ	会
を	を	な	に
抱	知	け	ひ
く	っ	れ	と
気	て	ば	り
持	、	な	で
ち	大	ら	立
。	き	な	ち

次の文章を読んで、問いに答えなさい。

これも今は昔、田舎ひなの児ちこの比叡ひえの山へ登りたりけるが、桜のめでたく咲きたりけるに、風のはげしく吹きけるを1見て、この児さめざめと泣きけるを2見て、僧のやはら寄りて、などアかうも泣かせし給ふぞ。この花の散るを惜しう覚えさせ給ふか。桜はかなきものにて、3かく程なくうつろひ候なり。されども、さのみぞ候と慰めければ、「桜の散らんは、あながちにいかがせん、苦しからず。我が父てとの作りたる麦の花の散りて、実みの入いらざらん思ふが侘わびしき」といひて、さくりあげて、よよと泣きければ、うたてしやな。

(注)

やはら——静かに

などかうは泣かせ給ふぞ——どうしてそんなにお泣きになるのですか

さのみぞ候——それだけのことです

散らんは——散ってしまうことは

あながちにいかがせん、苦しからず——どうということがありましよう、

いっこうにかまいません

うたてしやな——がっかりさせられることだ

問一 一線ア、イを現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで答えなさい。
(各1点)

ア

こ う

 イ

た も う

問二 この文章中には、本来「」をつけるべき会話部分があると一つある。会話部分の初めと終わりの三字を抜き出さない。(2点)

な
ど
か
ゝ

み
ぞ
候

問三 一線1、2の「見て」はそれぞれだれの動作を表しているか、次から選び、記号で答えなさい。(各1点)

ア 作者 イ 父 ウ 僧 エ 児

1

エ

2

ウ

問四 一線3「かく程なくうつろひ候なり」とあるが、この部分の意味として最も適当なものを次から選び記号で答えなさい。(2点)

ア こうしてひたすら咲き続けるのです
イ こうして遠慮がちに咲き続けるのです
ウ こうしてまもなく散っていくのです
エ こうして誇らしげに散っていくのです

ウ

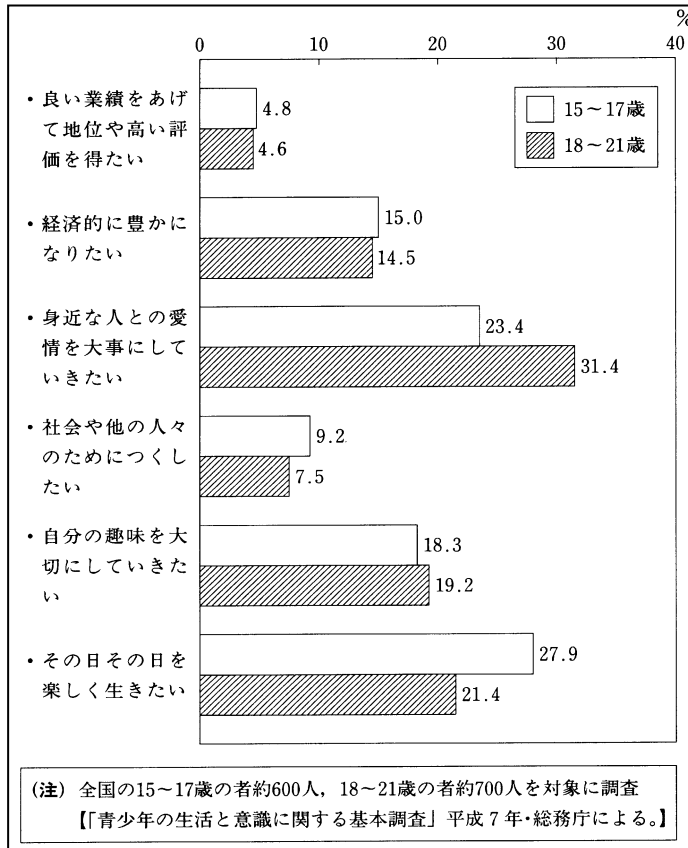
問五 文章の最後で、作者が「うたてしやな」と言っている理由として最も適当なものを、ア〜エから選びなさい。(2点)

- ア 僧は、児が桜の散るのを惜しんで泣いていると思っていたが、児は父の作っている麦のことを心配していたから。
- イ 僧は、山の桜が散るのは仕方がないと思っていたが、児はあきらめきれずに散った後のことを心配していたから。
- ウ 児は、比叡の山の桜が風に吹かれて散るのを見て、自分の父が作っている桜の花の散ることを心配していたから。
- エ 児は、僧から桜が散るのは仕方がないと聞かされていたが、その後も桜が散ってしまうことを心配していたから。

ア

次のグラフは、「青少年の人生観（人の暮らし方）」についての調査結果である。これを見て、あなたの感じたことや考えたことを書きなさい。

青少年の人生観(人の暮らし方)



注意

- 1 字数は先生の指示に従うこと。
- 2 作文原稿用紙のますの中には、題名・氏名を書かないで、初めの行から書き始めること。
- 3 原稿用紙の正しい使い方に従って書くこと。

問一 次の——線の漢字の読みをひらがなで書きなさい。

(各2点)

- ① 文化祭の企画。 (きかく)
- ② 夜空を仰ぎみる。 (あお)
- ③ 無邪気に笑う。 (むじゃき)
- ④ 鋭い感覚。 (すぐど)
- ⑤ 注意を促す。 (うなが)

問二 次の——線の部分を漢字で書きなさい。(各2点)

- ① 意見をゴウインに押し通した。 (強引)
- ② 話を聞いてナツトクした。 (納得)
- ③ 目上の人をウヤマウ心を持つ。 (敬)
- ④ 現在にイタる。 (至)
- ⑤ 両者のソウイ点。 (相違)

問三 例にならって、次の□にあてはまる否定の意味をもつ漢字一字を書きなさい。(2点)

(例) 完成 ↓ □ 未完成

常識 ↓ □ 常識

□ 非

問四 次の——線の中に、まちがって使われている漢字が一つある。その語句を抜き出し、正しく書き改めなさい。(2点)

彼は絶体絶命の危機に陥った。彼女は無我無中でその様子を見ていた。

無我無中 ↓ 無我夢中

問五 次の□に共通の漢字を入れると、それぞれ四字の熟語と慣用句ができる。その共通の漢字を書きなさい。(2点)

我田引 □

立板たていたに □

水

問六 次の文の——線の部分、どの部分に係るか。記号で答えなさい。(2点)

せめて

ア例の

イちようを

ウ見たいと、

エぼくは

オ中に

カ入った。

ウ

問七 次の(例)の——線「の」の中で、一つだけ文法上の働きが同じものがある。それを選び、記号で答えなさい。(2点)

(例) それは、雨の降る晩であった。

ア ぼくは山に登るのが好きだ。

イ 朝のさわやかな空気を吸う。

ウ ひとりだと、こわくてたまらないの。

エ みんなのいるところへ戻ろう。

エ

Part 7

今日の漢字練習



次の一線部の漢字に読みがなをつけなさい。

- | | | | | |
|---|----------------------|---|-------|---|
| ① | 音楽に <u>関</u> 心がある。 | (| かんしん |) |
| ② | 貴重品を <u>預</u> ける。 | (| あず |) |
| ③ | 美しい <u>景</u> 色。 | (| けしき |) |
| ④ | エネルギー <u>資</u> 源。 | (| しげん |) |
| ⑤ | 話題を <u>提</u> 供する。 | (| ていきょう |) |
| ⑥ | 厳 <u>し</u> い寒さ。 | (| きび |) |
| ⑦ | 大会は雨で <u>延</u> 期された。 | (| えんき |) |
| ⑧ | 温暖な <u>気</u> 候。 | (| おんだん |) |
| ⑨ | 適切な <u>判</u> 断。 | (| はんだん |) |
| ⑩ | 台風の <u>影</u> 響。 | (| えいきょう |) |
| ⑪ | 敵の <u>攻</u> 撃をうける。 | (| こうげき |) |
| ⑫ | 事件の <u>詳</u> 細。 | (| しょうさい |) |
| ⑬ | 微妙な <u>変</u> 化。 | (| びみょう |) |
| ⑭ | <u>握</u> 手を交わす。 | (| あくしゅ |) |
| ⑮ | 優越感に <u>ひ</u> たる。 | (| ゆうえつ |) |
| ⑯ | 不正行 <u>為</u> は許されない。 | (| こうい |) |
| ⑰ | 確かな <u>証</u> 拠をつかむ。 | (| しょうこ |) |
| ⑱ | 歓迎を <u>う</u> ける。 | (| かんげい |) |
| ⑲ | 自然破 <u>壊</u> が進む。 | (| はかい |) |
| ⑳ | 爆発 <u>的</u> な人気。 | (| ばくはつ |) |

次の一線部のひらがなを漢字に直しなさい。

- ① 音楽にかんしんがある。(関心)
- ② 貴重品をあずける。(預)
- ③ 美しいけしき。(景色)
- ④ エネルギーしげん。(資源)
- ⑤ 話題をていきようする。(提供)
- ⑥ きびしい寒さ。(厳)
- ⑦ 大会は雨でえんきされた。(延期)
- ⑧ おんだんな気候。(温暖)
- ⑨ 適切なはんだん。(判断)
- ⑩ 台風のえいきよう。(影響)

- ⑪ 敵のこうげきをうける。(攻撃)
- ⑫ 事件のしようさい。(詳細)
- ⑬ びみょうな変化。(微妙)
- ⑭ あくしゆを交わす。(握手)
- ⑮ ゆうえつ感にひたる。(優越)
- ⑯ 不正こういは許されない。(行為)
- ⑰ 確かなしようにをつかむ。(証拠)
- ⑱ かんげいをうける。(歓迎)
- ⑲ 自然はかいが進む。(破壊)
- ⑳ ばくはつ的な人気。(爆発)